

彦根市議会12月議会で獅山市長が言明

場外馬券売場設置反対の立場を堅持！

「開発協定書」「確認書」は今も有効か？

12月11日の彦根市議会で田島茂洋議員（公政会）は原町のJRA場外馬券売場の誘致について獅山市長の考えを質しました。

田島議員は「ウインズ石和に行政視察したが、何ひとつ懸念するところはなかった。私達は土地の有効利用と財政への貢献を鑑みて誘致に向け運動している。市長と原開発委員会との開発協定は現在もその内容は確かなものなのかどうか、生きているならば中味について伺いたい」と質問しました。これに対し獅山市長は「これは8年以上前に締結されたもので、様々な状況が変化していないのかどうかという問題がある。『現在も内容が確かなものかどうか』は比

「彦根市にギャンブル施設はいらない」

続いて、田島議員が場外馬券売場誘致に対する市長の考えを質しました。

これに対し、市長は「私は以前市長をしていた当時から場外馬券売場に反対の立場を堅持してきた。その後、車券舟券売場の計画も出てきたが、全体的な主旨として『彦根市にギャンブル施設はいらない』という考えから反対の立場をとっている。

大学が三つもあり若い人がこういう所へ

「歳入面の利益もはっきりしたものはない」

さらに田島議員は「市長は感覚的、抽象的な事で反対しているが、現地へ行くと、そのような懸念はひとつもなかった。特に歳入面での利益が非常に多くあるので、企業誘致を提唱している市長としては是非理解してもらいたい。どのようなことをクリアしてくれば本当になるのか、ならないのか再度伺いたい」と迫りました。

これに対し市長は「要望書や上申書にはこれだけの有利な面があると具体的にお金の問題まではつきり書いているが、その内容が本当かどうかということについては、はつきりしたものはなかった。」と答え、場外馬券売場誘致の財政的メリットについては、確かなものかどうかを確認することが出来なかったことを明らかにしました。

較検討するものがないのでお答えできません。また『生きているかどうか』についても、現段階ではその内容が明確でなく答えることが不可能である。」と答弁しました。

また、田島議員が場外馬券売場計画の「確認内容」等について質したのに対し、市長は「これらの確認書や変更確認書は非常に年月が経過しており、当時の状況と現在の状況と、さらにこれをどのように使うのかという点が全然わからないのでコメントするわけにはいかない」と答えました。

このように8年以上も前の開発協定書や確認書を持ち出して使用したいとする考えに対し、市長は否定的な認識を示しました。

行くのはどうかという考え方もあるし、ギャンブル場が近くに来た為に市民がこれに熱中してしまい、破産や夜逃げ等が生じるのも市長としては歓迎しないという意味もある。また、周辺の住民の方々もかなり反対しておられる。こうしたことから私は選挙では車券舟券売場反対の公約を掲げたが、同じ主旨で場外馬券売場についても反対するということである」と答えました。

さらに市長は「インターチェンジの入口にそういう施設がある場合に彦根市民の品格に対する考え方が問われるのではないか。私の公約ははつきりと反対である。しかし議員はもとより地元の皆様も市民の皆様も『良い施設だから誘致しなさい』という雰囲気盛り上がった時には、私も『わかりました』という可能性はある。けれども、今の段階では全然そういうものはないので反対だと申し上げている。」と答えました。

この後、田島議員は「是非とも市長、何とか議員の皆さんの理解を得ながらやっていきたい。また地元の方への説得についても十分に尽くさしてもらえと思っていますので、その点については是非ご理解を頂きたい。」と注目発言をして締めくくりました。